

稲沢東高校の高大連携の取組が 注目を集めています！

全国大会で発表してきました。

平成27年7月30日(木)青森県立青森東高等学校にて全国理科教育大会青森大会が開催され、研究協議第5分科会「小・中学校や大学との連携を考えた高等学校理科教育」の意見提示者として、本校の門口先生が全国から集まった理科の教員に向けて発表を行いました。

発表後、他県の先生から本校の連携の詳しいことを知りたいと質問を受け、本校の取組が全国から注目されていることを実感しました。県内の高校からは、連携講座の見学に訪れたいという申し出を受け、夏休みの講座を見学して頂きました。

今年も2年生理系の生徒を中心に生き生きと活動しています。



発表内容の要旨

連携の取り組みは平成23年度から実施しており、理科の連携講座が生徒の学習意欲の喚起に効果があることを実感し、現在まで継続して実施している。連携講座では、普段の授業では見られないような生き生きとした生徒の姿が見られる。

意欲が向上した状態で、言語活動を充実させることに留意した指導をすることによって、生徒の科学的思考力を育てることに効果がある。生徒に発表をさせたりレポートを提出させたりする際、生徒はいろいろな方法で実験をやり直したり、積極的に質問し合ったり教え合ったりしている。深く考え、理解できたという体験が、講座後の普段の授業にもよい影響を与えている。

本校から近い大学と連携することで、こまめな打ち合わせが可能であり、年間をとおした納得のいく講座を継続して実施することができる。年間をとおした講座の実施によって、生徒の学習意欲を維持できる。

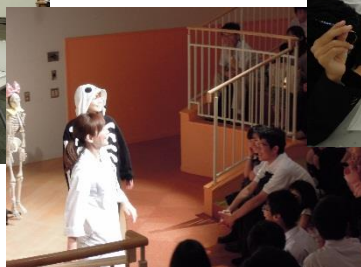


連携講座の様子

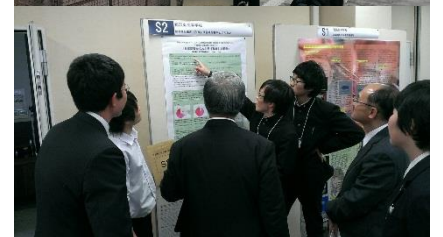
名古屋文理大学との連携



SPP



名古屋市科学館との連携



科学三昧 in あいちでの生徒発表